

平成28年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、学校の特色及び工業高校としての社会的ニーズにも考慮して「学校経営計画」を策定し、その中の「学校アクションプラン」において、全日制では4、定時制では2、合計6の重点課題を設定した。各重点課題に対する取り組み状況や評価等はアクションプランに記載したとおりである。

学力と学習意欲の向上は、学校の最も追求すべき課題であり、本校では互見授業の実施回数を指標として設定したが、評議員からは回数ばかりを追求するのではなく、生徒アンケートの結果（「授業がよくわかる」と回答した生徒の割合）を注視すべきであり、授業の改善を図ることこそが重要である、とのご指摘頂いた。生徒指導の充実については、取り組みの成果を評価していただき、今後も引き続き、地域の意見も取り入れながら、きめ細かな指導を継続されたい、とのご助言を頂いた。

進路指導については、昨年同様に75%もの生徒が順調に就職しているほか、地元学校進学への理解推進に期待する、とのご意見を頂いた。特別活動に関しては、百周年記念にかかる数多くの取り組みや、近年の各部活動、コンテスト等への成果について高く評価していただいた。

定時制の重点課題については、資格取得指導を通じた学習指導や意欲の向上、皆勤精勤を促す取り組みや教育相談について重視すべき事項についてご指摘いただいた。

学校評議員会は2回開催し、重点課題について説明と報告を行った。評議員の方々からは、本校の取り組みについて評価を頂くとともに、数多くの示唆に富んだご助言や励ましの言葉を頂戴した。こうして伺った数多くのご意見を、今後のより良い学校経営に生かしていきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 今年度の学校評価の結果に基づき、本校の現状と課題について職員全体で謙虚に受け止め、計画の改善と取り組み体制の強化に努めていく。
- (2) 達成目標の妥当性を十分に検討し、また具体的な調査方法についても工夫して、重点課題への効果的な取り組みを目指す。
- (3) アクションプランを公開することにより、学校の取り組みに対する地域や保護者の理解を頂き、学校とのより緊密な連携を目指していく。
- (4) 本学校評価システムを通して、職員全体が学校の教育活動への共通理解を深め、生徒の人間形成や自己実現に向けた、真に有意義な教育活動に結びつけるように努める。